

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472700277		
法人名	社会福祉法人永楽会		
事業所名	グループホームそよかぜ		
所在地	宮城県富谷市富谷桜田1-11		
自己評価作成日	令和2年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2020年12月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームそよかぜは「とうみやの杜」の敷地内に位置しています。広い敷地内は、緑が多く散歩には最適な環境です。他施設との交流を図りながら、交通安全運動や地域の行事等に参加し、地域の一員として生活が出来るよう地域の方との顔馴染みの関係を大切にしています。また、リハビリや余暇活動の充実を図る事で安心して「その人らしく」生活が出来るよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富谷市と永楽会が一体となって運営されている「だれもが一人の人間として尊重され、地域の一員として迎えられる地域社会の実現をめざす総合福祉エリア『とうみやの杜』」にホームは立地している。永楽会は介護事業所のみならず障がい者支援施設、地域包括支援センターも運営している。コロナ禍のため、例年開催される町内会のイベントが中止になるなど、地域との交流の機会が少なくなっている。グループホーム独自の基本方針「1. 人生の先輩と共に思いやりと笑顔を持って楽しく歩みます」「2. 本人の歩調に合わせた自由な時間を提供します」「3. 地域の一員として気軽に交流が出来るようにします」を掲げ、特に『ご本人(利用者)の歩調に合わせる』ことを重点にし、ケアプランなどに生かすことを心掛けている。運営推進会議はコロナ禍により、行事、入居者の状況、勉強会や対策などを文書報告することになっている。感染症対策を徹底し時間を短縮し、家族との面会が叶うよう取り組んだ。職員は、外出の機会が少なくなくても、ホームの中で豆まきやバレンタイン、ひな祭り、敬老会など様々な工夫を凝らし季節の行事を企画し、利用者に喜んでもらいコロナ禍を乗り越えようとしている。例年行っている近隣の保育園児との交流ができないか、職員間で話し合いリモート交流会を企画し、画面を通して子ども達のお遊戯や歌を楽しむことができた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームそよかぜ）「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	とうみやの杜の理念に基づき、独自基本方針を作成しそれに基づき支援を行っている。また、所内に掲示しており日々確認できるようにしている。ケア会議等で確認し合い実践している。	法人理念に基づき、ホームの基本方針「人生の先輩と共に思いやりと笑顔を持って楽しく歩みます」「本人の歩調に合わせた自由な時間を提供します」等、3項目を掲げ、ケアプランに活かし本人の希望を尊重した支援をしている。理念は年度初めにケア会議で振り返って	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防に努めており、例年実施していたイベント参加や交流は出来ていない。代わりにオンラインで保育園との交流会を実施している。	町内会に加入している。昨年は町内会の夏祭りなどに参加していたが、今年は、コロナ禍の中で安全を何よりも重視し参加していない。ボランティアの受け入れも自粛していたが、近隣の保育園の子ども達とリモートで交流する機会を設けるなど利用者が楽しめるよう取り組んだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防に努めており、地域との交流は難しい状況にある為、民生委員に運営推進会議の資料を送付して、認知症の人の理解や支援方法を地域の方々にに向けて伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防に努めており、実際に集まったの会議は実施していない。2カ月毎に会議資料を送付し、入居者の状況・取り組みの報告を行い、電話で意見を頂くようにしてサービスの向上に活かしている。	例年は、民生委員、保健福祉総合支援センター職員（市職員）、家族、利用者が参加し開催している。今年はコロナ禍の為、ホームの行事や利用者の状況を写真付きの報告書にまとめ送付している。昨年、外部評価の「目標達成計画」に家族の参加を掲げていたが、コロナ禍の為、家族から電話で意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告書、推進会議、電話での状況報告をしており、場所も近隣である事から時折助言を頂いている。	外部評価の結果報告や運営推進会議の資料を市に届けている。困難事例の相談をするなど協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で話し合い、個々の状況に応じ身体拘束を行わない支援を工夫している。とうみやの杜のリスクマネジメント及び身体拘束廃止委員会内においても話し合いが行われ、職員同士で情報共有をしている。	敷地内にある同法人の特別養護老人ホーム、ケアハウスなどと共に身体拘束廃止委員会を設置し職員が参加している。委員会で現状把握や改善の検討などを行い、ホームのケア会議で報告している。外出したい、自由に動きたいなどの利用者の意志を尊重し職員は見守りなどの支援をしている。玄関は21時30分から翌朝7時まで施錠している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	とうみやの杜のリスクマネジメント及び身体拘束廃止委員会内においても話し合いが行われ、職員同士で情報共有をしている。	法人で行う身体拘束廃止委員会開催時に虐待防止の研修も行っている。内容は、職員に伝達し周知している。チェックシートを活用し、大声を出していないか、荒い話し方をしていないか、聞こえ方や声掛けの仕方などの事例を上げ、具体的な対応方法など話し合い虐待防止に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防の為、今年は実施できていないが、とうみやの杜にて、人権擁護委員会の方に職員向けの研修や、入居者を対象にした相談会が行われており、職員や入居者に参加してもらい、意識の向上に努めている。また、研修に参加出来ない職員に関しては、ケア会議等で情報共有をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学や申し込み・入居時に説明を充分に行い理解を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との普段の会話、家族面会時や電話などで積極的に意見や要望を聞き、ケア会議等で話し合いを行い、運営に反映させるように努めている。	コロナ禍で家族の面会も控えていたが、状況を考慮しながら感染予防を徹底し、県内の家族は15分の面会を可能にするなど取り組んでいる。面会できない期間は、家族が差し入れなどで来訪した際に日頃の様子を報告したり、要望などを聞いていた。意見箱を設置したり、第三者委員を委嘱し、家族や利用者が相談できるよう配慮している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のケア会議や日頃の申し送り等で職員の意見を聞き、運営に取り入れ反映させる様にしている。	ケア会議などで、職員から排泄のケアのことや、食材の改善(一部冷凍食品の利用)などによって時間が短縮し、利用者のケアに使えるのでは、との提案が出され、検討し改善に繋がった。職員の資格試験、研修などは業務扱いで実施している。職員の相談にも都度乗っている。	法人全体で研修を行っているが、職員が提案した内容や事業所独自としての研修にも取り組み、職員の資質の向上に繋がるよう期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で協議し、努力している。定期的に人事考課を実施し、職員の能力を考慮した上で、その能力が発揮できるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人材育成・研修企画検討委員会を設置し、育成に取り組んでいる。法人内外の研修を受ける機会を設けている。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内のグループホームで運営・基準勉強会を行い、開催場所を輪番などとし、サービスの質の向上に努めている。	法人全体で勉強会を行っている。開催会場を順次事業所を変えて行っているため、それぞれの仕事のやり方を学ぶこともできている。職員が他サービス事業所と交流することで、サービスの質の向上に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が何を求めているのか、何をしたいのか、不安な事はないかじっくりと聞く。普段の生活からコミュニケーションを多く図り安心して過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査や契約時から不安な点や要望等を伺う。その後、面会時や電話で、不安な点や意向の確認を行ない信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査や契約時の話し合いの中から今、何を求めているのかを見極め、サービスに活かせるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物干し・たみなどを一緒に行き、生活を共にしている事を感じてもらおうように努めている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話で話せるような環境を作り、互いに支え合う関係を保てるよう努めている。特に面会の際は積極的に家族と向き合うようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防に努めており、馴染みの場所に出掛けたり、家族以外の面会は実施していない。	コロナ禍の中で安全を最優先に考え、外出の機会が少なくなった。外出できない分、旬の物を食べたり、テイクアウトのお弁当を用意したり、日常生活を工夫している。馴染みの関係が途切れないよう年賀状や電話の支援を継続して行っている。オンライン面会に取り組み、家族に説明し事前予約を受けて実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の特徴や関係性を把握し、食卓での座席の配置や支援の順番等に配慮し、互いが支え合う仲になるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了以降も気軽に相談に乗ったり、訪問して頂けるような環境づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	基本的に入居者主体の支援に努めているが、意思表示などが困難な場合は家族と相談した上で支援を行っている。	利用者や家族から意見や希望を聞き、アセスメントなどから意向を把握し叶えられるよう支援している。意志表示の困難な場合は、日常の様子や家族の情報から支援に繋げている。歌が好きだった利用者には、CDプレイヤーを用意して好きな曲をかけ唄えるように取り組んだら表情が明るくなった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活習慣や環境・趣味等を本人・家族から聞き、日々の生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を作成し、日々の状況把握に努めている。又、入居者が出来る事を担当職員、家族と話し合っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者が入居者や家族の意向を組み入れた介護計画を作成している。3ヶ月に1度、担当の介護職員がモニタリングを行い、ケア会議で確認し合っている。	月1回、ケア会議を開催している。介護計画の見直し時には、モニタリングやアセスメント情報収集シートを参考にし、電話などで家族から意見・意向を聞き、変更点を確認し作成している。コロナ禍で家族の訪問や面会を自粛しており、介護計画は電話で説明したり郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の生活記録を作成し、日々の状況把握に努めている。また、個々の生活記録を支援の見直しや介護計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の体調変化には随時対応し、困難な事例が生じた際には他事業所や支援センターに相談するなどして解決に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防に努めており、地域資源を生かして生活したり、出掛けたりすることは実施出来ていない。施設内で実施出来る行事を行い、楽しんでもらえるように努めている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診をしている。状況に応じて家族の協力を頂き、職員が付き添い主治医に相談している。	かかりつけ医は家族の希望を聞き、受診している。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月1回職員が同行し通院している。眼科・皮膚科などの専門病院には、家族が付き添って通院している。日頃の健康管理は職員が行い、必要に応じ同法人の特別養護老人ホームの看護師に相談している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に、看護職の配置は無い為、介護職が日々の健康管理を行っている。急変時や、処置が必要な場合等は隣接の特養の看護師に相談や協力を要請する場合もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要な情報を提供し、入院状況の伺い・経過の聞き取りをこまめに行なっている。又、施設の嘱託医への協力を要請している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、事業所でどこまで出来るのかを家族に説明している。状態の変化に応じて、主治医・家族を交え、今後についての話し合いを行っている。	入居時に「看取りに関する指針」を説明している。かかりつけ医が終末期と判断した時には、職員も立ち合い医師が家族に説明し、意向を確認している。説明後、利用者、家族の希望をケアプランに反映し支援している。ターミナルケア対応表を作成し、いつ・誰が・何をするのかを明記している。ターミナルケアマニュアルがあり、職員の研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員対象の救命救急講習でAEDの取り扱いや応急手当の方法などを学んだり、事故予防についての勉強会に参加して、急変や事故発生時に備えている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を設置し、マニュアルの見直しや避難訓練の実施計画を行なう。日中・夜間想定火災避難訓練や地震想定・水害想定・水害想定の実施している。	台風による水害を経験したことから、同法人の他の事業所と防災委員会を設置した。一緒にマニュアルの見直しや日中・夜間想定火災避難訓練や地震想定・水害想定の実施している。見直しの結果、避難場所を同敷地内のケアハウスから中央公民館に変更した。火災報知器、スプリンクラーの設備点検は定期的に行っている。備蓄は3日分である。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持った上で、一人ひとりに合った声掛けや支援を工夫し行っている。傾聴する事を心掛けている。	今年度コロナ禍のため、接遇の研修ができずにいたが、職員一人ひとりが利用者の人格を尊重し、言葉遣いなどに気を付け支援している。名前は基本「さん」付けで呼んでいる。トイレ誘導はさりげなく行い、居室に入る時はノックや声掛けをし、利用者の意向を確認している。声のトーンにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人との会話や日常生活の中で、本人の思いや希望をくみ取るように心掛けている。また、時間をかけて意思決定ができるように心掛け支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースを大切にし、一日を楽しく希望に沿って安心した生活が出来るよう努めている。一日一回は外を散歩したり、体操を行うなど実施している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に応じた好みの化粧品を購入している。また、本人の好みや季節感に合わせて、職員と一緒に着替えの服を準備するなどの支援を行っている。			
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみながら食事が出来るよう行事食、出前・持ち帰り食を取り入れている。食事の準備や後片付けも一緒に行っている。入居者の食べたい物を聞き取り、担当職員がメニューに反映させている。	メニューは食事担当職員が作成し、食材は業者に配達を依頼している。誕生日などの特別食は利用者の希望を取り入れて作っている。利用者には野菜の皮むきなど、できることをお願いしている。職員は、アクリル板を設置したりコロナ対策を徹底しながら、一緒に食事をしている。同法人の特別養護老人ホームの栄養士からアドバイスを受けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量を毎日の生活記録に記録し、状況・状態に応じて栄養補助食品や経口補水液を使用しての支援を行っている。また、毎日の献立には多種類の食材を使用するよう心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・就寝前に口腔ケアの支援を行っており、一人で可能な方は声掛け・見守りを行っている。希望に合わせて、週1回の歯科衛生士による口腔ケアと、月1回の歯科医による往診も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日々の記録から個人個人のパターンを把握し、可能な限り、布製下着の着用や、トイレでの排泄支援を行っている。	排泄記録から排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。アセスメント表に利用者の状態、状況を記入し、リハビリや布製下着など一人ひとりに合わせた、ケアを行っている。就寝時は十分な睡眠ができるように対応している。便秘対策として水分量を多めにしたり、乳製品を取り入れているが、医師の処方で服薬している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分、リハビリ等の運動の他、下剤処方での対応など個々の状況・状態に応じて対応している。又、乳製品や、乳酸菌飲料を定期的に飲むようにしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の意向を聞き、希望時にゆっくりと入浴を楽しめるように支援を行っている。	週2回を基本に入浴支援をしている。週3～4回希望する利用者にも対応している。湯は都度交換している。利用者の好みのシャンプーや石鹸を使用し、気持ちよく入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況・状態に応じて昼寝をしたり、睡眠を妨げないように室温や掛物、物音などに配慮している。寝具についても定期的に洗濯を行い、清潔を保つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為、服薬支援の際一人ずつ名前を確認し、細心の注意を払い服薬の支援を行っている。症状の変化については、職員間で情報を共有し確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・後片付けや洗濯物干し、洗濯物たたみの手伝いなど役割を持てるようにし、本人の希望に合わせた、趣味や散歩などの支援を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナウイルス感染予防に努めており、例年実施していた買い物、ドライブなど希望に沿っての外出支援は出来ない。	例年は、年間計画を立て、花見、紅葉、ドライブ、初詣などに出かけているが、今年はコロナ禍で通院以外の外出を自粛している。日常的には気分転換にホームの周りを散歩したり、室内でできる行事を工夫しながら企画し実施しているが、感染予防をしながらストレス解消にドライブに行くこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力に応じて、個人で現金の管理が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は食卓や玄関等の共有スペースに設置しており、いつでも電話が掛けられるようになっている。また、掛ける事が出来ない方には職員が手伝っている。手紙や年賀状のやり取りが出来るように支援をしている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や絵を飾ったりするなどして、季節感や家庭的な暖かみを出すように工夫している。	外のテラスにはテーブルと椅子が置かれ、日向ぼっこなど居心地が良く過ごせるよう環境に配慮している。リビングには、乾燥しないよう加湿器を設置し、温・湿度管理は職員が行っている。壁には日めくりカレンダーや大きい文字の丸い時計が掛けられ、季節の飾り物や行事の時のタペストリーなどが飾られ明るい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に過ごせるような開放的な空間を作ると共に、腰掛ける場所を多く配慮する事で、気の合う入居者同士が談話されている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前使用していた家具や仏壇などを持ち込み、居心地良く、安心して生活が出来るように家族に協力を頂きながら、住環境を整えている。	居室にはエアコン、クローゼット、洗面台、ベッドが設置されている。それぞれ馴染みの家具や仏壇、冷蔵庫、テレビなどを持ち込んでいる。写真なども飾られ自宅のような居心地の良い部屋になっている。箆箭の引き出しには、一つ一つ衣類の種類が書かれ整理整頓がしやすいように工夫されている。温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、居室には表札を掲げている。生活に必要な物を直ぐに取り出せるよう工夫している。		